

京都市の学校評価システム

令和5年度実施状況

—学校・家庭・地域が「自らを振り返り」「互いに高め合う」—

令和6年9月

京都市教育委員会

目 次

1 京都市における学校評価の考え方	1
2 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」 による第三者評価	4
3 学校評価の現状や課題と今後の方向性について	5
〔参考〕	
京都市立元町小学校における実践事例	9
京都市立向島東中学校における実践事例	23

1 京都市における学校評価の考え方

本市では、市民ぐるみ・地域ぐるみで「一人一人の子どもを徹底的に大切に」教育を推進するため、「保護者・地域等の参画による開かれた学校づくり」のもと、学校・家庭・地域が相互に高め合う「京都方式」の学校評価を、全国に先駆けて実施し、「学校運営の組織的・継続的な改善」「教育活動の質的向上」等に努めてきた。

国においては、平成19年に学校評価に関する法令の改正が行われ、「学校による自己評価の実施とその公表、教育委員会への報告」が義務化されるとともに、「自己評価結果に対して保護者、地域の方々など学校関係者による評価を得ること」が努力義務とされた。

本市では、これらに加え、学校評価の実施状況について客観的に検証し、学校教育の質の向上につなげるため、法令上の義務付けのない第三者評価として、学識経験者等による「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」を設置するなど、現在、「京都市学校評価ガイドライン（第3版）」に基づき、次の4点を柱とし、各学校・園において、学校運営協議会等と密接に連動しつつ学校評価の充実に努めている。（参考1－1～参考1－4参照）

（1）学校評価をみんなのものにする（学校関係者評価）

各学校では、学校教育目標やその実現に向けての具体的実践に関わる評価内容を全教職員が共有し、今後の教育活動の改善に向けた行動につなげている。併せて、学校運営協議会等による「学校関係者評価」の評価結果を公表することで、保護者や地域の方々にも共有でき、学校評価は、子どもたちの学校生活を「市民ぐるみ・地域ぐるみ」で「よりよいもの」とする上で、重要な役割を担っている。

（2）当事者意識を持って評価する

評価の実施にあたっては、評価者自身がよりよい学校づくりを進める当事者であるという意識を持つことが肝要である。このため、学校関係者評価においても、「学校の自己評価結果に対する評価」に加え、社会の宝である子どもや、学校のために何ができるのかを、「自分ごと」として捉え、「学校の課題を把握し、課題解決に向けた支援策」を学校運営協議会等で協議、行動に繋げていただくことにしている。

（3）自らを振り返り、互いに高め合う

本市では、足りないところを指摘するだけではなく、同じ目標を実現するためにそれぞれの立場で自らを振り返ることを重視してきた。「教職員は自らの教育活動や指導を振り返る」「保護者は自らの子育てを振り返る」「地域は子どもへの関わりを振り返る」、そして「子どもたちは、自らの学習や活動に向かう学びの姿勢を振り返る」など、お互いに補い合い、高め合う確かな信頼関係の下で「みんなごと」としての学校評価を進めている。

（4）学校の魅力を発見し、発信する

学校教育活動への保護者や地域の方の深い理解と協働を得ていくためには、学校の魅力や課題の発見につながる工夫に富んだ情報発信が必要である。

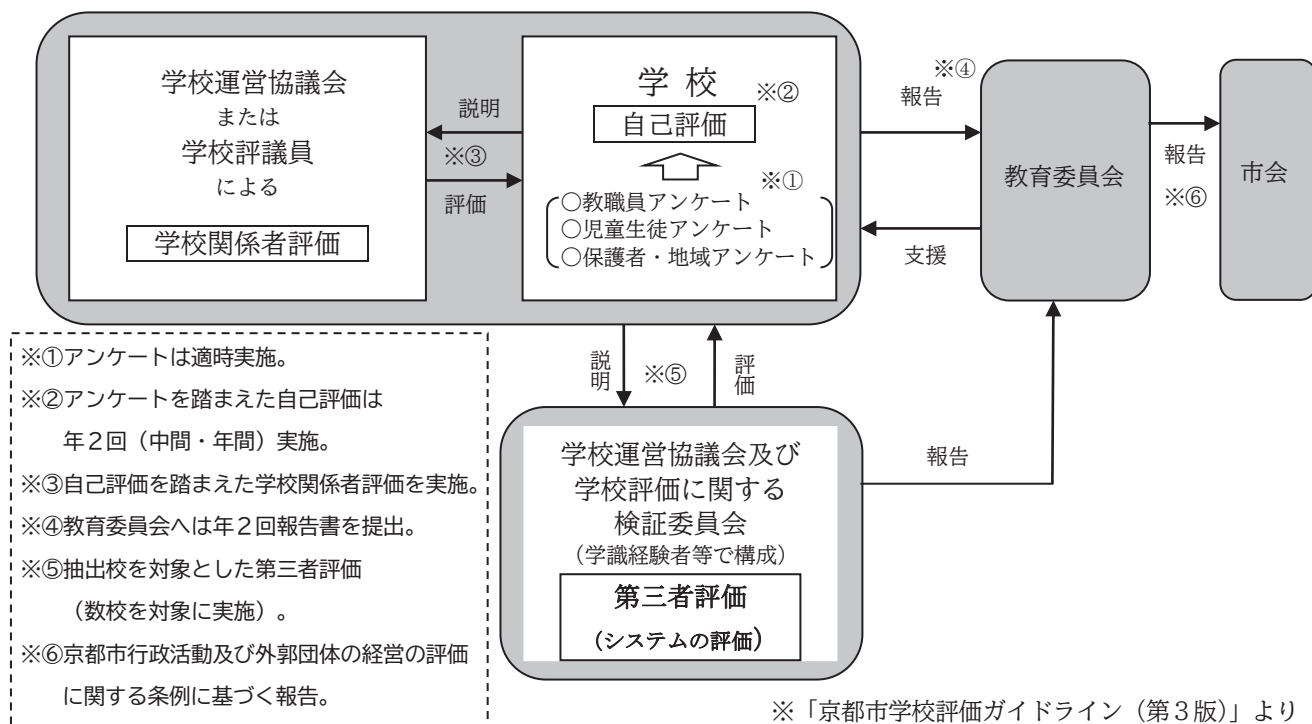
そのため、本市では、独自に開発した「学校評価支援システム」を導入し、アンケートの作成・集計・分析の効率化を図りつつ、アンケート結果や取組の成果、課題に対する改善策等をわかりやすくとりまとめ、全校のホームページへの掲載や学校だよりの配布等を通じて積極的に情報発信している。

参考1－1 制度導入の経緯

平成13年	学校評価の試行実施（校長会との共同プロジェクト発足）
平成15年 4月	全国に先駆けて全校・園で学校評価を開始、「京都市学校評価ガイドライン」の策定
平成16年 3月	全校・園での評価結果の公表
平成19年 4月	「京都市学校評価ガイドライン」の策定（第2版）
平成19年 6月	「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」の施行 学校教育法の改正（学校評価の根拠規定、学校の積極的な情報提供についての規定を新設）
平成19年 7月	「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」を設置 （学校運営協議会に関する専門委員会 学校評価部会を組織改正）
平成21年 6月	「京都市学校評価ガイドライン」の策定（第3版）

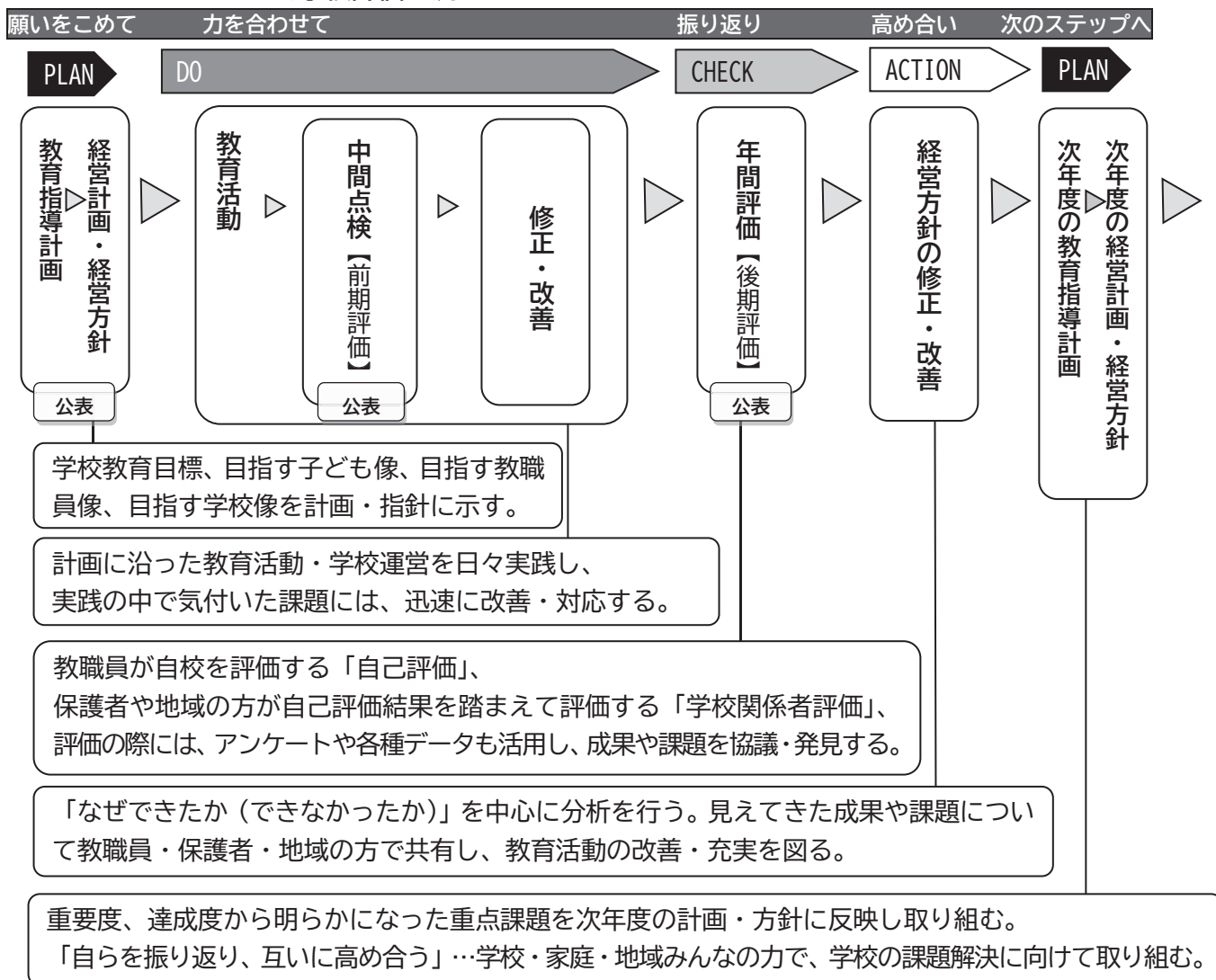
参考1-2

「自己評価と学校関係者評価、第三者評価のイメージ図」



参考1-3

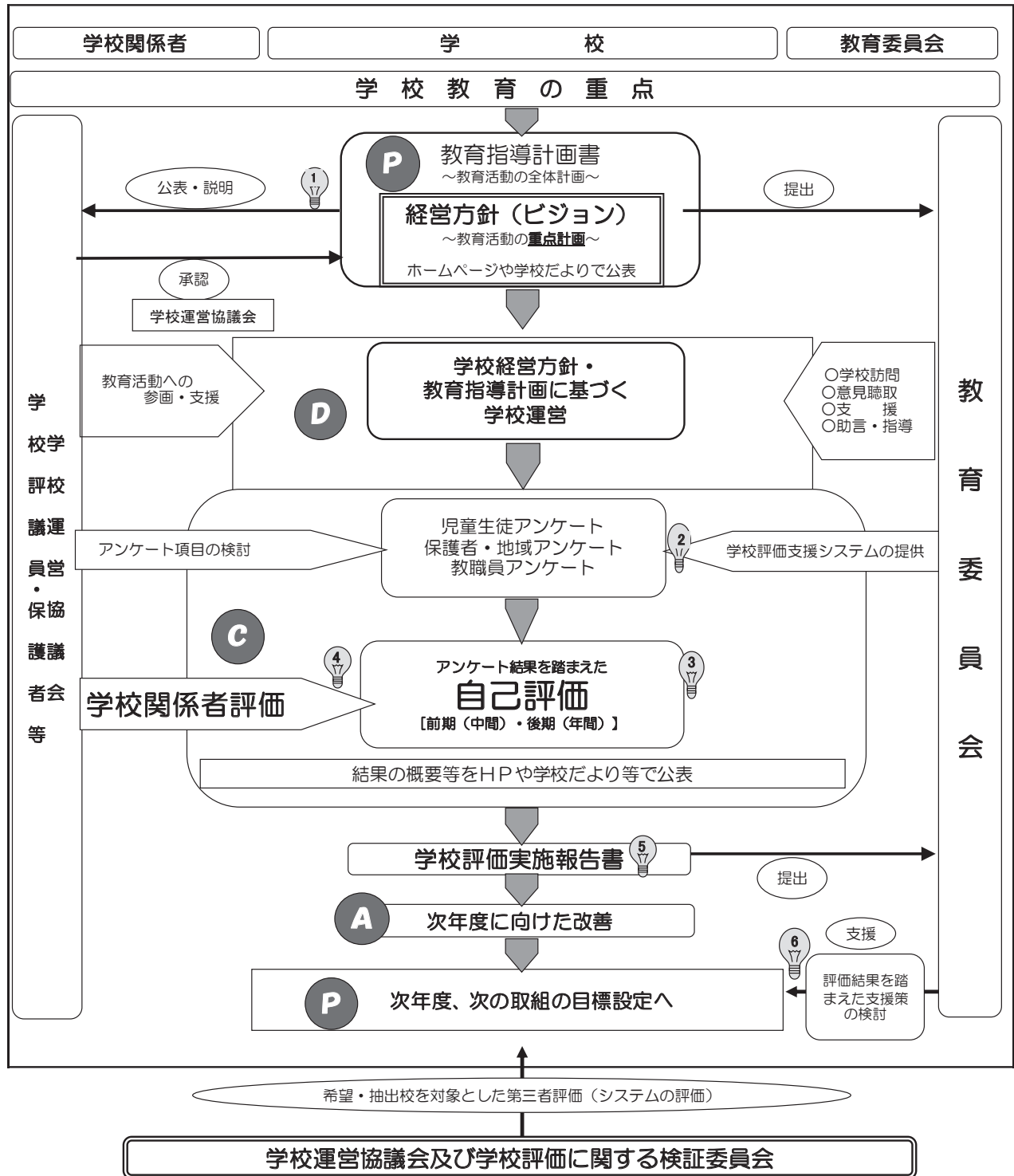
「PDCA サイクルに基づく学校評価の流れ」



※「京都市学校評価ガイドライン（第3版）」より

学校評価の推進と学校運営の改善

学校は、自己評価を基本とし、学校関係者評価を活用して、組織的・継続的に学校改善を図っていきます。



ポイント

- 1 学校経営方針、学校評価年間計画、評価項目の策定、公表
- 2 学校の魅力・課題の発見に繋がるアンケート手法の活用（推奨）
- 3 学校組織としての自己評価を充実させ、評価結果及び改善策を提示
- 4 自己評価結果に対する学校関係者評価の実施と、課題解決に向けた改善策や支援策の協議
- 5 評価結果の教育委員会への報告（年間2回）
- 6 教育委員会は学校に対する様々な支援の情報として評価結果を活用し、助言する

※「京都市学校評価ガイドライン（第3版）」より

2 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」による第三者評価

(1) 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」の概要

本市では、学校評価の各学校での実施状況を含め、学校教育活動の充実に資する学校評価システムの客観性・信頼性を第三者的な視点から検証するために、学識経験者等で構成される「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」（以下、「検証委員会」という。）を設置している。

なお、検証委員会は、「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」第11条第2項に規定する調査・審議のための委員会としての機能も果たす、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づく附属機関である。

【令和5年度検証委員会委員】（敬称略・役職等は令和5年度のもの）

◎小松 郁夫	京都大学 特任教授
○天竺 茂	千葉大学 名誉教授
天野 広一	公募委員
梶谷 良野	株式会社島津製作所 常務執行役員
木村 姫都美	公募委員
竺沙 知章	京都教育大学連合教職実践研究科 教授
西川 信廣	京都産業大学 教授
三吉 淳子	PTA 代表（京都市小学校 PTA 連絡協議会副会長）

※ ◎は委員長、○は副委員長。委員長・副委員長を除き、五十音順に記載。

(2) 令和5年度 検証委員会の実施状況

令和5年10月19日（木）、12月18日（月）に会議を開催。また、各学校における学校評価の実施に関する第三者評価として、元町小学校、向島東中学校の2校を訪問。

<委員の主な発言>

学校運営協議会・学校評価の意義とその共有

- 保護者の考えや意見を学校がどのように受け止めるか、保護者とどのように協力・連携していくかなど、学校と地域の関わりは大きなテーマの一つである。
- 学校にただ批判や注文を出すだけでなく、お互いの成長のためにどのような部分を課題と捉え、協力・応援し合えるのか考えることで、ビジョンが見えてくる。
- 保護者から意見を聞き取るうえで、保護者自身の仕事と家庭の両立のためにも、保護者との会議や話し合いをオンラインで実施するなど、学校運営協議会も工夫して行っているかどうか。
- 学校のマネジメントにおいて、現状をどう捉えて、どうやり繰りしていくか、そしてそれが地域や保護者など対外的にアピールできているかも大切。
- 学校教育目標の分かりやすさなどは、学校運営協議会の制度上も大切な事である。
- 学校や地域の実態に沿った学校評価がなされているかは重要な視点である。
- 学校は学校評価を通して、教育委員会にこのような支援やアドバイスが欲しいと伝えてほしい。また、そのような声が、教育委員会でどのように活かされるかが重要である。
- 普段から自分たちを振り返る機会を意識して持つという事が、学校の中でもう少しあってもよい。
- 学校評価の循環（つながり）の「見える化」は一つの課題だと思う。「見える化」することで、学校評価の次の展開につながると感じた。
- 検証委員会の効果を他校にも波及できるといい。

持続可能な学校運営協議会

- 学校運営協議会のメンバーが固定化した際に、活動に新鮮さがなくなってしまうため、新しい取組を行うよう心掛けることが大切である。
- 学区の横のつながり（自治連合会やPTA）や行政区を超えた繋がりができつつあるが、共働きも増えており、次のなり手を探すとなると、土日の行事参加が難しいなどの課題があり、次の世代の巻き込み方を考えていく必要がある。
- 小学校・中学校のみならず、幼稚園との連携は必要であるとする。保護者にとって、学校や地域と関わる機会は幼稚園が初めてなので、小学校に入るまでの幼児教育段階で、保護者・地域との連携を積極的に進めた方がよいのではないかと考える。
- PTA 役員だけでなく、役員以外の保護者についても、学校との連携が必要であるとする。
- 教員が学校運営協議会の活動に対して、深く関心を持てるようにするしくみを作るのが課題である。

学校教育の充実等

- 京都市の目指す子ども像・学校像を明確に意識し、教育 DX ビジョンを進める必要がある。
- ICT に関することは、1 箇月単位で急速に変わるため、学校間での差や、個人差にも大きな幅があることが大きなテーマである。
- ICT の活用については、幼稚園から大学まで継続する事項であるため、各段階での学習が重ならないよう、繋がりを意識しないといけない。
- 子どもたち自身がしっかり端末を活用し、学ぶことも大切だが、保護者も子どもたちがどのような学習をしているのか理解することが必要。
- 総合的な学習の時間などで、タブレット等を使って情報を集め、集めた情報を分析したり、整理したりする学習活動の経験が結果に表れていると感じた。
- コロナ禍で様々な学校行事が閉鎖的になり、保護者へ学校の教育理念が浸透しにくい面があると感じた。
- 学校行事について、大人はコロナ禍からかなり元に戻ったという見方をしているが、子どもの立場から捉えると、元に戻ったのではなく、これまでの学校が標準であって、新しい学校ととらえるべきではないかと考える。学校行事を元に戻す、復活させることが最善なのか考え直すべきである。
- より良い学校づくりを進めていくにあたって、子どもたち・教職員のウェルビーイングが重要である。
- 教職員がチームで子どもたちを見ていくことが大切である。
- 教科や単元の面白さを生徒たちに感じさせるような授業をすることで、子どもたちが落ち着き、成長していくと考える。
- 学校の頑張りを見られた一方、もっと地域の力を借りられる余地があるのではないかと考える。

3 学校評価の現状や課題と今後の方向性について

令和 6 年 6 月に本市が学校・園を対象に行った各校での令和 5 年度における学校評価の実施状況に関するアンケート調査を踏まえつつ、本市における学校評価の現状や課題と今後の方向性について、以下のとおり概説する。

なお、[参考 2-1](#)～[参考 2-5](#)は、同調査の各質問項目に該当する旨の回答を行った、小・中学校（義務教育学校を含む）の割合を示したものである。

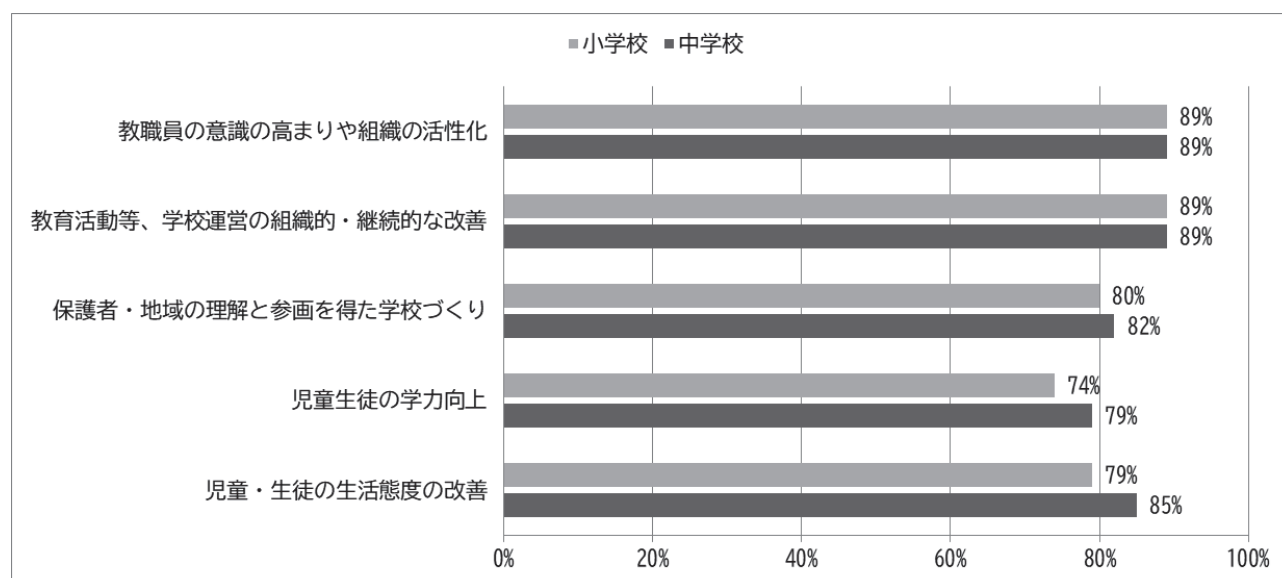
（1）学校評価の活用による効果について

自己評価による振り返りや学校関係者評価による成果や課題の共有等を通じて、教職員の意識の向上や組織の活性化、学校運営の組織的・継続的な改善に効果が見られたほか、保護者・地域の理解と参画を得た学校づくりが進み、ひいては、児童生徒の学力向上や生活態度の改善にも効果があったとの回答が多くあった。（[参考 2-1](#) 参照）

P9に本市の実践事例として掲載する元町小学校では、目指す学校像として「家庭・地域と連携・協働することで一体感のある学校」を掲げており、子どもたちの様子や学校での取組を地域の方に知ってもらうだけでなく、地域の多様な人材を活かした体験学習を進めるなど、学校評価を通じた実態把握や取組の改善によって、双方向での関わりを持ちながら、地域ぐるみの教育活動が進められている。

このように本市では、学校評価を基軸とした PDCA サイクルの中で明らかとなった成果や課題を、教職員だけでなく、学校運営協議会をはじめとした家庭・地域等と共有し、市民ぐるみ、地域ぐるみによる魅力ある学校づくりが進められている。

参考2-1 学校評価の効果について



(2) 学校評価を通じた教育活動の改善に向けた課題と今後の方向性について

ア 評価実施に伴う業務負担の軽減

課題としては、アンケートの回収、結果の集計や分析、結果報告書の作成といった学校評価の実施に伴う事務作業への負担感を挙げる学校が多い。(参考2-2参照)

本市ではアンケートの作成・集計・分析・データ管理を一つのシステムメニューに統合し、分析結果を平易にグラフ化できる独自のシステム「学校評価支援システム」を平成26年度に導入した。また、Web上でアンケート作成・集約等を容易に行うことのできるツールの積極的な活用を各学校に推奨しており、引き続き、学校・教職員の負担軽減に努めていく。(小・中学校(義務教育学校含む)の97%が、Web上でのアンケート作成・集約を、実際に活用又は活用を検討している。)

イ 評価結果の共有及び改善の取組

学校評価を通して判明した学校や児童生徒に係る課題については、多くの学校で教職員に説明・共有されているほか学校運営協議会等でも協議されるなど、地域ぐるみで課題解決に向かう関係性が築かれている。一方で、改善策についての話し合いや次年度の教育指導計画等への反映など、具体的な解決に向かう行動が取れているかについては、ばらつきも見られる。(参考2-3参照)

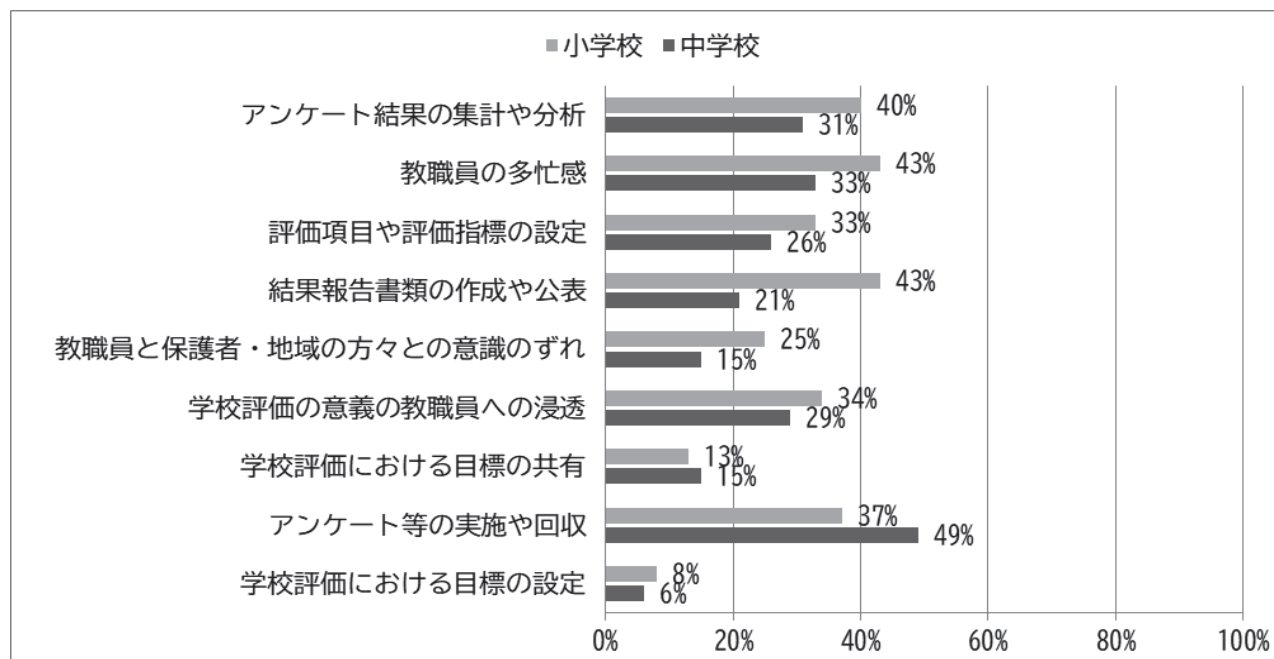
学校評価は、学校や地域の状況に沿った評価を実施し、課題を明らかにするだけでなく、課題の改善に向けたPDCAサイクルを回していくことが肝要であり、その繰り返しが学校教育の質の向上につながる。こうした学校評価の意義や目的、学校で明らかとなった課題等について、学校の教職員や学校運営協議会の理事・委員だけでなく、保護者や地域の方々へ広く発信・共有することにより、学校評価の重要性・学校評価を通じた教育活動の改善に関する理解を深め、学校評価の取組の質の向上に努めていく。

ウ 教育活動の充実等について

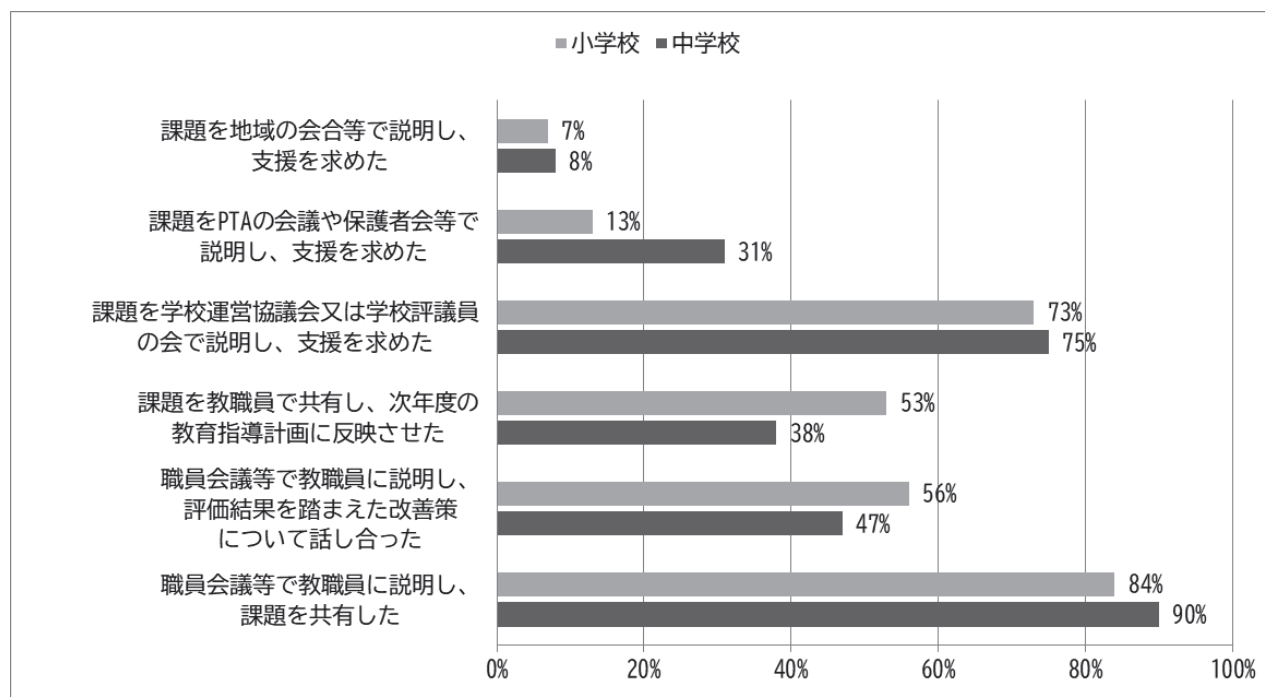
令和5年度の検証委員会では、場面に応じたICTの活用推進と並行して、対話力の向上や対面でのコミュニケーションに重点を置いた指導、複数担任制の導入などの学校体制づくり、授業フレームの作成（授業構成をパターンごとに見える化）による授業改善、教育の質の向上のための教職員の働き方改革などに取り組む学校を訪問した。

教育DXの進展など学校を取り巻く環境が変化する中、育てたい資質・能力を意識したICTの効果的な活用や、教育の質の向上につなげるための教職員のウェルビーイングの向上が求められる。令和6年度の検証委員会においては、こうした観点も踏まえ、各校の取組が一層充実したものとなるよう検証を進めていく。

参考2-2 学校評価に関する課題あるいは困難だったと感じられる点



参考2-3 学校評価を通して判明した「学校や生徒たちの課題」に対して、学校としてどのように対応したか。



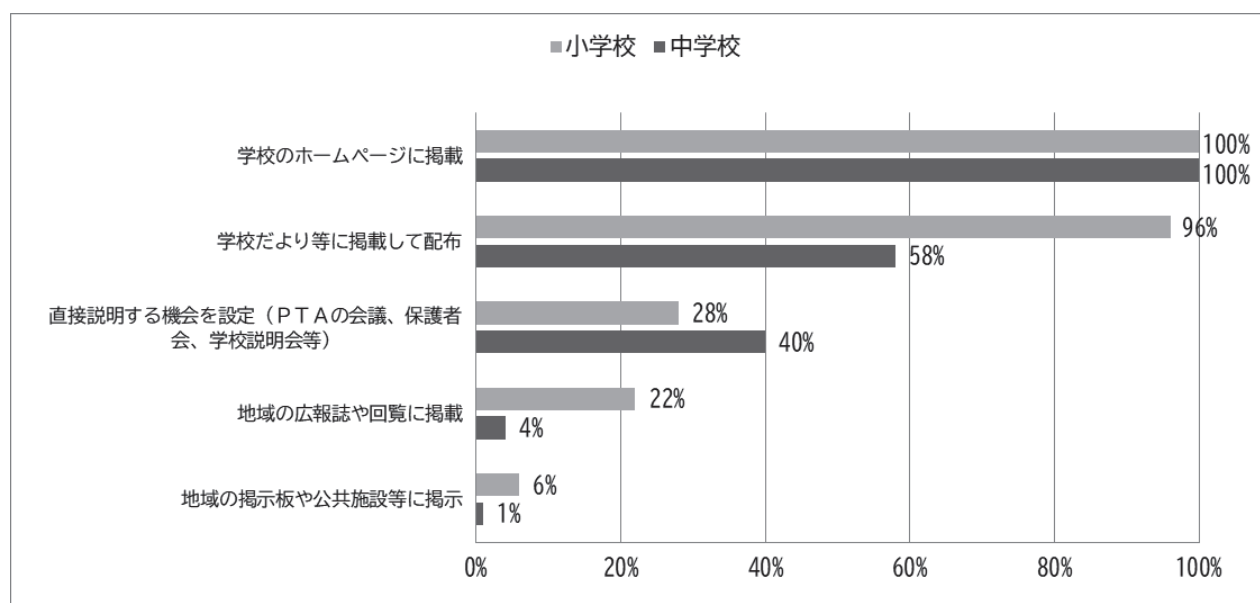
(3) 公表の方法や工夫について

保護者や地域の方と協働して学校教育活動を推進するには、効果的な情報発信が欠かせない。

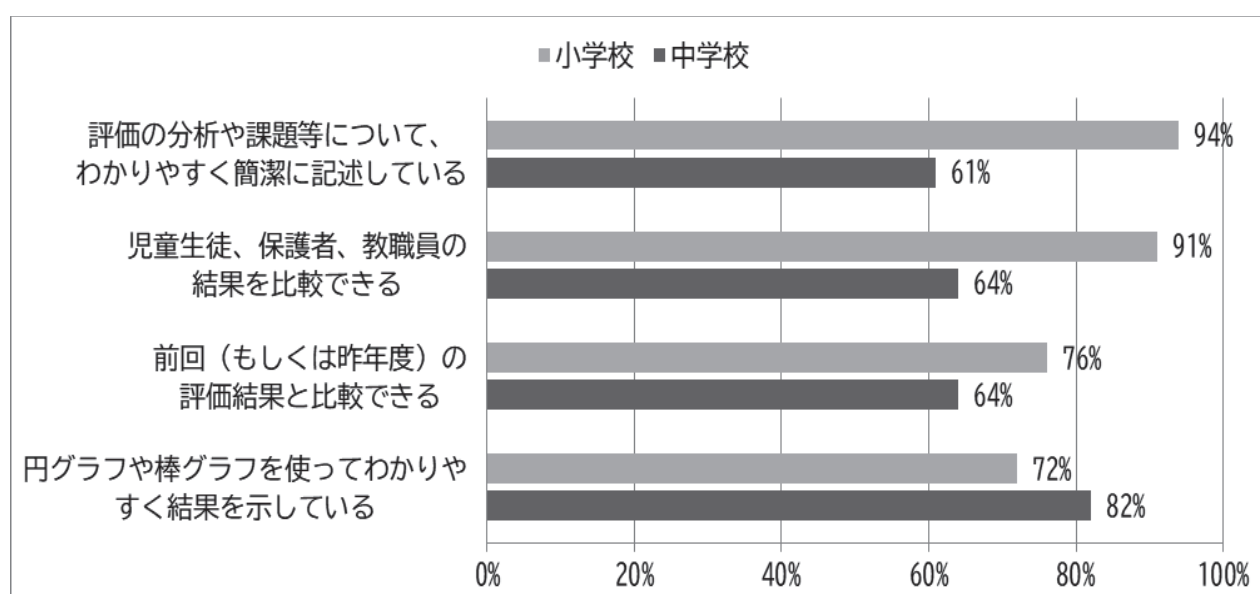
学校評価の結果については、全校でのホームページへの掲載や学校だより等でお知らせなど、学校の実態を踏まえながら複数の方法を活用しているほか（参考2-4参照）、児童生徒・保護者・教職員の回答の比較や学校での取組と関連付けた考察の分析、イラスト化やグラフ化などの視覚に訴えるなど、分かりやすいものとなるよう、各校において工夫が施されている。（参考2-5参照）

この間、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校運営協議会等の場における対面での説明など、保護者と意見交換する機会が減少していたが、改めて、学校の考え、思いを地域の方へ発信・共有することが、地域ぐるみで魅力ある学校づくりを進めるうえで不可欠との認識に立ち、優れた発信方法の事例の共有や検証委員会等での協議を深め、更なる改善を図っていく。

参考2-4 公表方法についての工夫



参考2-5 公表内容についての工夫



<参 考>

京都市立元町小学校における実践事例

○所在地 京都市北区小山西元町14

○児童数 106名（令和5年5月1日現在）

○創 設 1936年（昭和11年）開校

○中学校ブロック

加茂川中学校、元町小学校、上賀茂小学校、紫竹小学校、紫明小学校

※ 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」が学校訪問等により実施した第三者評価としての指導助言の内容を含め掲載。

令和5年度 学校経営方針

京都市立元町小学校

学校教育目標

自ら考え、夢に向かって積極的に行動する子の育成

～進んでチャレンジし、対話を通して学びを深める元町っ子～

【育成を目指す資質・能力】「対話力」「挑戦(問題解決)力」

【目指す子ども像】

- ◎「も」:もっと学びたいと思える子ども(確かな学力)
- ◎「と」:ともだちを大切にできる子ども(豊かな心)
- ◎「ま」:まいにち笑顔で過ごせる子ども(健やかな体)
- ◎「ち」:チャレンジしながら考えて話せる子ども(育成を目指す資質・能力)

【目指す学校像】

- ◎明日も笑顔で来たいくなる安心感のある学校(笑顔の登校・満足の下校)
- ◎学校生活すべてにおいて、子ども・教職員ともに学び合う学校
- ◎家庭・地域と連携・協働することで一体感のある学校

【目指す教職員像】

- ◎子どもに温かく寄り添い、一人一人の思いや考えを大切にする教職員
- ◎子どもとともに歩み、自らも学び発信しようとする教職員
- ◎コンプライアンスを意識し、保護者・地域から信頼される教職員

【目指す子ども像について(「も」「と」「ま」「ち」を意識しながら学校生活を送れるように)】

◎「も」…もっと学びたいと思える子ども(確かな学力)

- ・授業での約束や学び方をきちんと身につけ、カリキュラムマネジメントや教材の精選、指導計画を意識しながら各教科・領域の見方・考え方や必要とされる基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる。
- ・タブレット端末の積極的な活用や研究教科を中心とした授業改善を通して、日々の授業と家庭学習との連動を意識させるとともに自学自習の習慣化を図る。

◎「と」…ともだちを大切にできる子ども(豊かな心)

- ・互いのよさを認め合い、子どもたちが協力する活動を意識的に取り入れることで自己肯定感や自己有用感を高め、子ども同士のつながりを支援する。
- ・自分からあいさつや「さん」づけなどを徹底し、互いに尊重し合いながら望ましい人間関係を築く。

◎「ま」…まいにち笑顔で過ごせる子ども(健やかな体)

- ・命の大切さや健康的に過ごすことの意義を認識し、自分も友達も笑顔で過ごせるようにする。
- ・規則正しい生活習慣や危険予知などを意識し、子ども自身が安全に学校生活を送れるようにする。

◎「ち」…チャレンジしながら考えて話せる子ども(身につけたい資質・能力)

- ・子どもが抱いた興味・関心や疑問、問題意識を大切にし、安心して学習に取り組めるように学年や発達段階に応じて、対話力ピラミッドを活用しながら対話を重視した授業改善を図る。
- ・「めあて」から「まとめ」「ふりかえり」までの基本的な学習展開を意識するだけでなく、発問の工夫やゆさぶり、話し合い活動など子どもの思考を意識した「主体的・対話的で深い学び」を実践する。

【目指す学校像について】

◎「明日も笑顔で来なくなるような安心感のある学校」

- ・本市の教育理念である「子ども一人一人を徹底的に大切にする」を教職員全員が意識できるように、学校行事や児童会活動などの取組にも積極的に参加し、喜びや感動、気づきなどを共有する。
- ・「子どもファースト」の理念のもと、学校生活すべてにおいて子どもたちが安心して教育活動ができるように、子どもの声に積極的に耳を傾けながらさまざまな面から支援する。

◎「学校生活すべてにおいて、子ども・教職員がともに学び合う学校」

- ・普段の学習活動だけでなく、縦割り活動や全員遊びなど特別活動でも学ぶことがあることを実感できるように指導し寄り添うことで、子どもの見取りや学習意欲の喚起につなげる。
- ・生き方探究パスポートの活用や子どものキャリアデザインにつながるような活動を積極的に取り入れ、子どもが話したり語り合ったりすることで、育てたい資質・能力の一つである「対話力」を高める。

◎「家庭・地域と連携・協働することで一体感のある学校」

- ・各家庭と教職員とが子どものことを中心に連絡を密に行い、家庭と学校とがしっかりと連携を取ることで子どもたち一人一人を大切にするという姿勢を意識する。
- ・元町小学校ならではの体験学習等を積極的に取り入れることで、保護者・地域の方々とのつながりを深め、元町小学校の子どもたちを組織的に育てていけるようにする。

【目指す教職員像について】

◎「子どもに温かく寄り添い、一人一人の思いや考えを大切にする教職員」

- ・生徒指導のポイント「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を組織的にかつ迅速に実践できるように、「子どもファースト」を意識しながら何か子どもの様子の変化等があればその都度集まるなど情報を共有することで、教職員間での連携を確実にする。
- ・子どもの表情や様子、成長の変化に日頃から敏感になり、思いや考えをじっくりと聞くとともに、教職員から寄り添う働きかけを常に意識する。

◎「子どもとともに歩み、自らも学び発信しようとする教職員」

- ・子どもの学びや学習経験、体験について教職員自身が知ること、子どものキャリア形成サイクルを実践していき、学級通信や学校 HP 等で気づきや変化について共有・発信していく。
- ・「対話力」「挑戦力」の意義や必要性について考え、元町小学校での教育活動だけでなく、社会に出てからでも大切な力であること認識しながら、自ら積極的に指導する姿勢で子どもと接する。

◎「コンプライアンスを意識し、保護者・地域から信頼される教職員」

- ・定期的に教職員ミーティングをするなどして教職員自身のコンプライアンスを徹底し、教育公務員としての倫理観を向上させていく。
- ・自らの資質や指導力の向上を目指すとともに、「チーム元町」として学校経営を担う一員であることを全教職員が自覚し、互いに連携・連絡を意識しながら教育活動を進めていく。

【今年度の重点指導事項】

◎「対話力」「挑戦（問題解決）力」の育成に基づく「主体的・対話的で深い学び」の充実

- ・子どもの問題意識や学びたいことをきちんと認識するとともに、問題解決において自分自身の力で最後までやり遂げられるような授業づくりや単元構成を、カリキュラムマネジメントの視点で考える。
- ・子ども自身が主体的に学べるように、タブレット端末の活用だけでなく単元の流れ・授業のステップを教科に応じて工夫して提示するなどして、学習の見通しがもてるような工夫をする。
- ・話し方や聞き方については、対話力ピラミッドを中心に学年に応じた形で系統性を意識して取り組み、話し合い活動は、ペアやグループ、全体など学習状況の場や思考などを工夫して充実させる。

◎自分づくりを目指すキャリアデザインと確かな評価

- ・個の見取りを核としたキャリア形成サイクルを実践し、どんな自分になりたいのかというキャリアの視点を大切にすることで、子どもと教職員との信頼関係を深める。
- ・がんばってよかったという達成感につなげるために、子ども自身の思いや考えで主体的に進めていく活動を尊重し、その様子や状況を学校と保護者・地域が連携しながらしっかりと見取る。
- ・生き方探究パスポートやキャリアデザインを活用し、子どもが自分らしく活躍するために必要な力を、学校生活を通して進んでチャレンジしていきながら身につけられるようにする。

◎今日も来てよかった、明日もまた学校に行きたいと思える「笑顔の登校・満足の下校」の実現

- ・本市の教育理念である「子ども一人一人を徹底的に大切にする」を教職員全員が意識し、子どもの見取りや支援を互いに共有しながら確実に実践していく。
- ・「対話力」「挑戦力」を高めるための具体的な取組を進め、学習面や対人関係などのさまざまな問題に対しても、子どもが学校への安心感と安全性を自覚できるように丁寧に対応する。
- ・学校運営協議会など地域や保護者、PTA からも本校の学校教育活動について幅広く意見をいただき、互いに協働していきながら「チーム元町」としての学校づくりを進めていく。

令和5年度元町小学校学校経営方針

学校教育目標

自ら考え、夢に向かって積極的に行動する子の育成
～進んでチャレンジし、対話を通して学びを深める元町っ子～

目指す子ども像

- ・「も」っと学びたいと思える子ども
- ・「と」もだちを大切にできる子ども
- ・「ま」いにち笑顔で過ごせる子ども
- ・「ち」ゃれんじしながら考えて話せる子ども

目指す学校像

- ・明日も笑顔で行きたくなるような安心感のある学校
- ・学校生活すべてにおいて、子ども・教職員がともに学び合う学校
- ・家庭・地域と連携・協働することで一体感のある学校

目指す教職員像

- ・子どもに温かく寄り添い、一人一人の思いや考えを大切にする教職員
- ・子どもとともに歩み、自らも学び発信しようとする教職員
- ・コンプライアンスを意識し保護者・地域から信頼される教職員

育成を目指す資質・能力

対話力

**挑戦力
(問題解決力)**

令和5年度重点指導事項

「対話力」「挑戦力」の育成に基づく
「主体的・対話的で深い学び」の充実

「今日も来てよかった、明日もまた学校に行きたい」
「笑顔の登校・満足の下校」の実現

自分づくりを目指すキャリアデザインと
確かな見取り・評価

子どもと教師との信頼関係の構築

形成サイクルによる実践力の育成

自己肯定感や自己有用感の高揚

- ① 的確な現状把握(めあての設定)
- ② 個に応じた活動や体験の場の工夫
- ③ 学習経験や生活体験による学び
- ④ 個の変容や育ちの確実な見取り
- ⑤ 子どもへの承認・賞賛などの声かけ
- ⑥ 子ども自身の成長の気づきや認識
- ⑦ さらなる個の見取り(新たな①へ)

自ら進んでチャレンジし、夢に向かって行動できる元町っ子の育成

1 評価のねらい

学校教育目標「自ら考え、夢に向かって積極的に行動する子の育成」の実現に向け、

- ・重点目標の達成度や取組について意見交換や検討を重ねながら改善を図ること
- ・目指す子ども像や学校像について共有するとともに、連携や協働しながら一体感のある教育活動を進めていくこと

2 重点評価項目

(1)「確かな学力」の育成に向けて

もっと学びたいと思える子どもを育てる（学習のルールを守り、対話を意識しながら協働的な学びをすすめることができる）。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

ともだちを大切にできる子どもを育てる（誰とでも仲良くし、相手の思いや考えをよく聞いて行動することができる）。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

まいにち笑顔で過ごせる子どもを育てる（自律し、しなやかに生きていくために、自分の生活の仕方について意思決定ができ、外遊びを楽しむことができる）。

(4) 学校独自の取組

チャレンジしながら考えて話す子どもを育てる（「対話力」「挑戦力」の育成、PDCA サイクルを意識したキャリアデザイン）。

(5) 教職員の働き方改革について

子どもや保護者、地域としっかり向き合うため、教職員一人一人が効率よく業務を進めることを意識し、心身ともに健全に職務を遂行する。

3 評価項目の検討方法

- ・学校教育目標の達成に向け、教育活動と学校運営の改善に繋がられるよう、評価項目を検討している。その方法として、目指す子ども像「も」「と」「ま」「ち」に合わせて項目を設定している。
- ・育成を目指す資質・能力に関わる項目は、長期的な変化を把握するため、「対話力」についてなど変更しない項目を設定している。
- ・中学校ブロック内で協議した際に、対話力の育成を目指す小学校が多かったので、その点については共通した評価項目を設定している。
- ・学校運営協議会理事会および企画推進委員会の場で、地域での子どもの様子をふまえながら協議している。

4 評価手法

- ・年間2回児童アンケートと保護者アンケート調査を実施している。なお、保護者アンケートについては、アンケート作成・集約等を容易に行う事のできるソフトを活用している。

- ・教職員アンケートの実施、教職員勤務時間の調査および集計
- ・全国学力・学習状況調査結果や児童質問紙の教職員による課題分析
- ・新体力テストの結果分析
- ・年間2回のいじめアンケートやクラスマネジメントシートの結果分析
- ・学校評価に対する自己評価への学校運営協議会理事からの意見や気付き

5 自己評価

(1) 「確かな学力」の育成に向けて

令和5年度は、小規模校としてできる範囲で、教科担任制を実施した。また、帯時間に、算数の「どんどんプリント」を実施したが、集中して取り組めている子どもは概ね多いと感じている。この取組については、基礎・基本の学力定着として効果を示している。次年度も継続して行いたい。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

本校では、毎月の朝会で「人権の日」としてテーマを設定し、多様性を認め合うことや心身を大切にすることなどについて、担当教職員の話を聞いて学んでいる。子どもたちはきちんと話を聞いており、ふり返りをみてもよく考えている姿が見られるので、今後もこのような活動をとおして自分自身や友だちを大切にすることを育てていきたい。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

「自分の心や体を大切にする」の項目では、保護者や教職員の実現度が極めて高い。それだけ保護者の意識は高く、健康・安全に関する取組にとっても協力的である。また、外遊びをする子どもの割合も増えているので、中間休みの体育館開放など進んで体を動かせる環境づくりを引き続き意識しながら健全な体の育成を進めていきたい。

(4) 学校独自の取組

「学習中の話合い活動を楽しんで行っている」という子どもの回答は高く、友だちと話しながら学習することに意欲的である。また、「本をよく読んでいる」という回答も増えているので、読書など、対話力の育成にもつながる取組は今後も工夫していきたい。

(5) 教職員の働き方改革について

毎週水曜日と金曜日には、18時に学校の施錠を行う「エコデー」を実施するなど、教職員の時間外勤務の削減を意識しながら取り組んでいる。また、教科担任制により、担任の空き時間を確保することができた。教員としての働き方について、外部からの多様な意見や考え方なども取り入れながら、今後も考えていきたい。

6 学校関係者評価

(1) 「確かな学力」の育成に向けて

家庭学習は大切であるが、自身に取り組むべき課題を見つけることが難しい子どももいるため、教職員から「家庭学習で何をすればよいのか」などの具体的な内容を伝えていってほしい。また、「どんどんプリント」は、自分で課題だと思うプリントを選び、取り組むことができるため、今後も継続してほしい。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

人権教育の取組はぜひ続けてほしい。正しいことを知ることが人権教育の基礎である。まずは、正しいことを知ったうえで、友達同士の関わりをとおして自分の考えを深め、人権意識を高めていってほしい。毎年、同じテーマであっても繰り返し実践していくことで、知識が定着していく。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

今年度、PTA の主催でラジオ体操やドッチボール大会を行った。子どもたちが外に出て体を動かすよい機会になったと思う。学校での子どもたちの課題を学校内だけではなく、地域や PTA の方々に共有することで、地域活動等でも、課題改善に向けた取組などを実践することができる。学校だけでなく、地域や PTA と共に子どもたちを育てていければなお良い。

(4) 学校独自の取組

学習発表会は、各学年趣向を凝らしており、「対話力」「挑戦力」を活かした素敵な発表であった。学校行事は、子どもたちが活躍できる機会でもあるので、普段とは異なる活動を取り入れるなど、内容の工夫をされたい。また、子どもたちの学習意欲の向上のため、学習環境の整備も必要である。学校だけでなく、地域も一丸となって協力し、魅力のある学校にしていきたい。

(5) 教職員の働き方改革について

学校を早く閉める取組「エコデー」は実践できている。どのようにすれば、仕事が効率的に進めることができるのか、教職員同士で共通理解を図ることで、働き方も変わってくるのではないかと。子どもと関わる時間を確保することも大切だと思う。

7 ICT 化の推進や働き方改革の推進、コロナ後の学校運営等、社会変容に応じた取組内容(学校評価の実施に際して)

- ・保護者連絡ツールを活用しながら学校・学級だよりや週予定表などを発信したことで、作業時間の短縮やペーパーレス化を図ることができた。
- ・保護者アンケートもアンケート作成・集約等を容易に行う事ができるソフトを活用したことで集計時間が短縮され、自由記述に書かれている内容を整理・吟味するなどの考察時間を確保できた。

8 総括・次年度に向けた課題等

第2回の学校評価の結果から、「学校で楽しく過ごしている」と答えた子どもは、93%で前回とほぼ同じだった。今年度は運動会を全校で行うことができ、たてわり競技も行い、異学年で楽しむことができた。その一方で、落ち着いて学習に取り組むことが難しい子どもや、友だち関係で悩む子どもが高学年に多い状況もあった。教科担任制やチーム担任などを取り入れ一人ひとりの子どもに寄り添いながら対応するとともに、今後も保護者にもこまめに連絡をとりながら学校と家庭が連携して子どもを育ていけるよう引き続き工夫を凝らしながら意識していきたい。

検証委員会の意見を踏まえた改善点

1 既に改善した点

- ・学校訪問の際、委員から「授業内でタブレットを使っていなかったように思われるが、意図的に手で書くことに重点を置いているのか。板書を否定するものではないが、上手にノートをとれる子どもとそうでない子どもの間で、学力の差が拡大する要因の一つになり得るのでは。」というご意見をいただいた。本校では、実際に手を動かしながら自分の考え・意見まとめることや、答えを導き出すための過程を整理してもらうため、教科に応じて「書く」指導にも重点をおいてきたが、改めて「書く」とことと「ICT」の効果的な活用場面や留意すべき点などについて教職員向けの校内研修を実施し、「書く学習（ノートやプリント）」と「タブレット等の ICT 機器を活用した学習」の使い分けや活用方法について教職員の学びを深めた。

2 今後改善する点

- ・「コロナ禍を経て保護者が学校と関わる機会が少なく、保護者は学校の様子が見えないという不安を抱えている方も多い。学校では、参観や懇談を含め、保護者と交流するための工夫や、連携について意識されていることはないか。」という問いかけを委員からいただいた。これまでは、地域の方々に子どもたちの様子を知っていただくため、学校のホームページで授業の様子を発信したり、PTA 主催のイベントに参加したりするなど工夫をしていたが、改めて、コロナ禍で地域との交流の場が少なくなっていたことを認識し、改善策を検討した。これからは、教職員の負担や地域の方の参加のしやすさなどについても考慮しつつ、企画推進委員会のふれあい部と連携を図り、学校と地域の交流を深めるために有効な取組は残しつつ、新しい行事を立ち上げるなど、地域の方々と交流する取組を推進していく。また、PTA 役員や有志で集まった PTA サークルの方々とともに連携しながら、交流の場を更に広げていきたい。
- ・学校行事について、「大人はコロナ禍からかなり元に戻ったという見方をしているが、子どもの立場からとらえると、元に戻ったのではなく、現在の学校が標準であって、新しい学校と捉えるべきではないか。学校行事を元に戻す、復活させることが最善なのか考え直すべきである。」という委員からの意見を受け、単に行事を元に戻すだけでなく、目指す子ども像や育てたい資質・能力を意識したうえで、既存行事の改善や、コロナ禍で得た経験や知識を基に、新たな教育活動を取り入れるなど、一体感のある学校行事を進めていきたい。

学校評価のねらい

児童、保護者、教職員が思いを率直に出し合い、保護者・地域と連携・協働した取組を推進することをねらいとする。
カリキュラムマネジメントの視点のもと、PDCA サイクルを潤滑にし、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る。

評価の検討と実施		学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中間評価	4	・学校教育目標、目指す子ども像の設定 ・教育指導計画書の作成、各部の年間計画作成、教職員自己目標申告書作成	・学校教育方針をHPに公表 ・前年度の学校評価結果をHPに再掲
	5		・学校評価計画をHPに公表
	6	・第1回学校運営協議会 学校教育方針の説明と承認 今年度の課題の確認	
	7	・児童、保護者、教職員を対象とした 第1回学校評価アンケートの実施	
	8	・結果の集約と自己評価の実施	
年間評価	9		
	10	・第2回学校運営協議会 1学期の取組の報告と第1回 学校評価アンケート結果の報告と理事の方による評価	
	11		・学校だより、HP等で結果報告と改善策を公表
	12	・児童、保護者、教職員を対象とした、 第2回学校評価アンケートの実施	
	1	・結果の集約と自己評価の実施	
年間評価	2	・第3回学校運営協議会 2学期及び3学期の取組の報告と第2回アンケート結果の報告と理事の方々による評価	
	3	・評価結果の分析と改善策の検討	・学校だより、HP等で結果報告と改善策を公表

令和5年度 第1回学校評価のご報告

木々の葉も色つき、一段と秋の深まりを感じる頃となりました。日頃は本校の教育活動にご理解ご協力をいたたきまして誠にありがとうございます。7月に実施した「学校評価保護者アンケート」「元町っ子アンケート(子ども)」「教職員自己評価」の結果を総合的に分析して、今後よりいっそう推進すべき点や改善点について考察しました。限られた紙面ではありますが、以下に、ご報告させていただきます。

学校教育目標

自ら考え、夢に向かって、積極的に行動する子の育成
～進んでチャレンジし、対話を通して学びを深める元町っ子～

目指す子ども像

- 「も」もっと学びたいと思える子ども
- 「と」ともだちを大切にできる子ども
- 「ま」まいにち笑顔で過ごせる子ども
- 「ち」チャレンジしながら、考えて話せる子ども

概要

本校では、「自ら考え、夢に向かって、積極的に行動する子の育成」という学校教育目標を受け、今年度は「対話力」「挑戦力」の育成に基づく『主体的、対話的で深い学び』の研究主題で教育活動を進めています。昨年度までは、「発信力」と「対話力」に重きを置きコミュニケーション能力を高める研究を行ってきました。今年度は、引き続き「対話力」を重点に置きながら、あわせて「挑戦力」にも力を入れて、「進んでチャレンジし、対話を通して学びを深める子ども」を目指しています。

学校評価においては、学校教育目標の目指す子ども像(も・と・ま・ち)に照らし合わせて、評価項目を「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」「学校独自の取組」と設定しました。今年度、保護者への尋ね方を、「～するようにお子たちにお声かけたいですか」から「お子さんは、～していると思われませんか」という表記に変更しました。「子ども」について皆で見えていくという視点をもつことで、子どもの実態をより明確にしていこうというねらいです。よって、同じような内容ですが、尋ね方が異なるため、昨年度までと純粋に比較できない項目も出てきます。

子ども対象の「元町っ子アンケート」は、今年も全学年オンラインで回答しました。多くの項目で80%以上が「できている」と答えています。自分の行動をふり返り、前向きに取り組むことができていることを意識できる機会となったのではないのでしょうか。

保護者アンケートは、今回からスクリーンからオンラインで回答していただきました。スクリーンに登録されていない方には、紙文書でお渡しさせていただきました。昨年度に比べて、回収率は74%と、下がりましたが、全体を通して、ほとんどの項目で実現度は80%以上でした。今後も学校と保護者が学校教育目標に向かって、協力し合っ

て子どもたちの心身ともに健やかな成長を目指していきたいと思います。

「教職員自己評価」については、多くの項目で実現度は80%以上でしたが、実現度が低い項目もありました。今後の教育活動の取組内容や方法等について検討を重ねていきたいと思います。

今回の学校評価の結果やいただいたご意見などについては学校運営協議会でも取り上げて話し合いました。今後も皆様のご協力をいただきながら、一人一人の子どものを大切にしたいと思っています。お忙しい中、アンケートにご協力いただきありがとうございます。第2回学校評価は、12月中旬に予定しています。

○学校評価(子ども・保護者・教職員)の結果

実現度は『よくできている』『だいたいできている』を合わせた数値

	質問項目	子ども実現度		保護者実現度		教職員実現度	
		R4	R5	R4	R5	R4	R5
学校生活	1 学校で楽しく過ごす	92%	94%	98%	94%	94%	100%
	2 進んであいさつをする	91	97	92	79	83	100
	3 色々なことにチャレンジしようとしている		90		83		94
子ども学習の意欲(確かな学力)	1 授業中に学習のルールを守る	92	92	84		100	100
	2 授業や休時間の学習に集中して取り組む	92	90	81	97	87	88
	3 家で宿題や自主学習などに進んで取り組む	86	91	92	78	86	73
子ども生活の意欲(豊かな心)	1 誰とでも仲良くする	93	98	94	89	93	100
	2 相手の思いや考えをよく聞いて大切にしている	98	96	92	86	100	100
	3 相手の気持ちを考えて行動する	91	89	96	87	93	100
子ども生活の意欲(健康な体)	1 自分の体や心を大切にしている	94	91	98	99	100	100
	2 生活リズムや歯磨きなど健康に気をつける	87	91	97	92	67	93
	3 進んで外遊びや運動をする	78	92	81	73	60	69
学校独自の取組	1 チャレンジして話せる子どもを育てる		90				100
	2 学習中に楽しく話し合い活動を行っている		91				87
	3 課題や問題に自分から進んで取り組む		90				88
学校独自の取組(保護者)	1 子どもが学校での出来事などの話をよくする			(96)	77		
	2 子どもの宿題や学習ノート、学校からのお便りなどを見る			92	93		
	3 本をよく読んでいる。		70		46		

主な成果と課題

＜学校生活＞

今年度、新たに目指す子ども像として、「チャレンジしながら、考えて話せる子ども」を掲げています。自分がチャレンジしようと思っているかを尋ねたところ、90%の子どもたちが、チャレンジしようしていると答えています。内訳をみると、43%の子どもたちが「よくできています」と回答しています。保護者から見ても子どもたちはチャレンジしようとしていて、積極的に挑戦しようとしている子どもたちが多いと感じています。今後も意欲的に学習などに取り組んでほしいと思います。

＜もっと学びたいと思える子ども＞

「授業はよくわかる」という子どもは96%いました。昨年度より、理解度は高まったようです。今年度、算数と理科の教科の学習に重点を置き、研究を進めています。算数については、帯時間にとんどんプリントを行い、基礎基本の定着を図っています。このような取組も子どもたちの理解度が高まった要因であると考えます。引き続き、基礎基本の定着と興味をもって学習に取り組めるような授業展開の工夫を入れていきたいと思っています。

＜子どもたちを大切にできる子ども＞

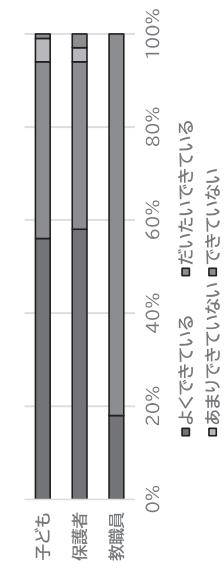
3項目とも、実現度は高く、本校の子どもたちが友だちのことを大切にしようと思う、人に接していることがよくわかります。毎月の朝会では、「人権の日」としてテーマを設けて多様性を認め合うことや心身を大切にすることなどを学んでいます。今年度は、6月に、1週間、掃除や遊びを異学年で行うたてわり週を設けました。毎日会うことで、早くに名前などを覚え、仲良くなっていました。10月末の全校遠足では、たてわりグループで行動したり、遊んだりしました。今後も様々な活動を通して、自分自身や友だちを大切にすることを育んでいきたいと思っています。

＜まいにち笑顔で過ごせる子ども＞

コロナが5類になったことで、生活習慣が少し落ち着いてきた感じを受けます。

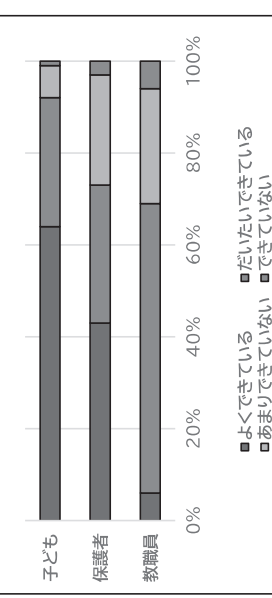
「進んで外遊びや運動をしている」と答えた子どもたちは、昨年度の夏頃(第1回目のアンケート)では、82%でしたが、今年度は、92%となりました。安心して、友達との外遊びなどを行っていることが分かります。しかし、保護者から見た子どもたちの様子は、73%と低めです。保護者の方から見ると、子どもたちは、外遊びや運動をそれほど進んで行っていないようです。夏の猛暑の影響もあるかと思っています。気候がよくなった秋の時期に、たてわり遊びや全校遠足などを通して、外で元氣よく遊ぶ機会を増やしていきたいと思っています。

色々なことにチャレンジしようとしている



「授業はよくわかる」という子どもは96%いました。昨年度より、理解度は高まったようです。今年度、算数と理科の教科の学習に重点を置き、研究を進めています。算数については、帯時間にとんどんプリントを行い、基礎基本の定着を図っています。このような取組も子どもたちの理解度が高まった要因であると考えます。引き続き、基礎基本の定着と興味をもって学習に取り組めるような授業展開の工夫を入れていきたいと思っています。

進んで外遊びや運動をする



＜学校独自の取組(子ども)＞

昨年度に引き続き「対話力」の育成に取り組んでいます。「学習中の話し合い活動(対話)」を楽しんで行っている」と答えた子どもは、「とても楽しんでいる」63%、「大体楽しんでいる」28%と合わせて91%と多くの子どもが友だちとの対話を楽しんでいることが分かります。また、「話し合い活動を行うことで、考えは深まっていると感じている」と答えた子どもは、92%いました。自分の考えを深めるためにも有効な活動になっているようです。今後も、子どもたちが対話を通してより学習に意欲的に取り組めるように学習を工夫していきたいと思っています。

＜学校独自の取組(保護者)＞

「本をよく読んでいる」と答えた子どもは、37%、「本を読んでいる」と答えた子どもは、33%でした。進んで読書をしている子どもは70%と、少なかつたです。家庭でも「本をよく読んで」と答えた保護者は46%とさらに低かつたです。ただ、お家でも本に親しむために以下のような手立てをされていました。

- ・目の付くところに本を置くようにしています。／手の届くところに色々な種類の本を置いています。
 - ・図書館や本屋によく一緒に行くようにしています。
 - ・一週間に1冊は本を読むように促しています。
 - ・寝る前にテレビを消して、寝室で本を読む流れがあります。／読み聞かせをしています。 など
- 例年2学期後半に行っていた選書会を今年度は、6月に行いました。子どもたちは、選んだ本を手に取りながら、喜んで読んでいた姿がありました。これを機に読書に親しんでほしいと思います。

費用について

○子どもたちの学習、安全に過ごすために必要な費用を使われていると思います。

⇒今後も、子どもたちの学習や生活のために必要なものを購入していきたいと思っています。

自由記述について

○色々とチャレンジしたいのですが、あまり色々なことにチャレンジできていないように感じます。

⇒「チャレンジ」は今年の取組の一つです。積極的にチャレンジできるように、雰囲気作りも必要です。学校、学

校で子どもたちが、やってみたい！と思える機会を作っていきたいと思っています。

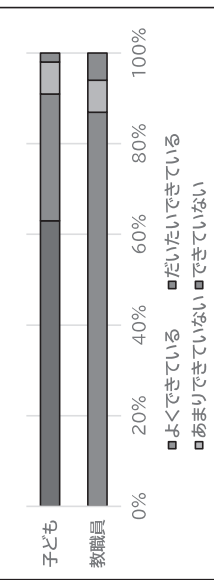
○色々な先生と話す機会があり、早く馴染めたように思っています。楽しく学校に通っているので安心して

⇒担任だけではなく、色々な教職員が子どもたちに関わるようにしています。皆で子どもたちを見守っていきたい

学校運営協議会より

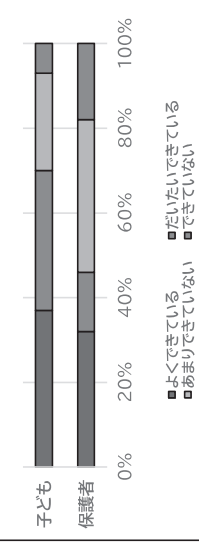
今回の学校評価アンケートの結果については、12月7日(木)の学校運営協議会にて、理事の皆様からご意見を頂戴しました。「子どものよさを見つけ認め合うことが大切だ。」「ICTを使えば、学校内だけでなく、もっと広い視野で活用していきたいのではないか。」などのご意見が出されました。いただいたご意見をもとに、今後とも学校と家庭と地域が同じ姿勢で子どもたちを育てていきたいと思っています。ご支援・ご協力をお願いします。

学習中に楽しく話し合い活動を行っている



「本をよく読んでいる」と答えた子どもは、37%、「本を読んでいる」と答えた子どもは、33%でした。進んで読書をしている子どもは70%と、少なかつたです。家庭でも「本をよく読んで」と答えた保護者は46%とさらに低かつたです。ただ、お家でも本に親しむために以下のような手立てをされていました。

本をよく読んでいる



「授業はよくわかる」という子どもは96%いました。昨年度より、理解度は高まったようです。今年度、算数と理科の教科の学習に重点を置き、研究を進めています。算数については、帯時間にとんどんプリントを行い、基礎基本の定着を図っています。このような取組も子どもたちの理解度が高まった要因であると考えます。引き続き、基礎基本の定着と興味をもって学習に取り組めるような授業展開の工夫を入れていきたいと思っています。

3月特別号

令和5年度 第2回学校評価のご報告

花の小さな蕾に春の訪れを感じるこの頃です。日頃は本校の教育活動にご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。12月に実施した「学校評価保護者アンケート」「元町っ子アンケート(子ども)」教職員自己評価の結果を総合的に分析して、今後よりいっそう推進すべき点や改善点について考察しました。限られた紙面ではありますが、以下に、ご報告させていただきます。

学校教育目標

自ら考え、夢に向かって、積極的に行動する子の育成
～進んでチャレンジし、対話を通して学びを深める元町っ子～

目指す子ども像

- 「も」もって学びたいと思える子ども
- 「と」ともだちを大切にできる子ども
- 「ま」まににち笑顔で過ごせる子ども
- 「ち」チャレンジしながら、考えて話せる子ども

概要

本校では、「自ら考え、夢に向かって、積極的に行動する子の育成」という学校教育目標を受け、今年度は「対話力」「挑戦力の育成に基づく主体的、対話的で深い学び」の充実」という研究主題で教育活動を進めてきました。昨年度に、引き続き「対話力」を重点に置きながら、あわせて「挑戦力」にも力を入れて、「進んでチャレンジし、対話を通して学びを深める子ども」を目指して、色々の教科学習や学校生活の様々な場面で取り組んでまいりました。

子ども対象の「元町っ子アンケート」は、今年も全学年オンラインで回答しました。多くの項目で80%以上が「できている」と答えています。しかし、第1回の結果より低くなった項目もあります。詳しくは、裏面にて報告しています。

保護者の「学校評価アンケート」は、回収率が66%でした。前回よりも回収率がさらに下がってしまいました。アンケートをお願する時期や内容、呼び掛けなど来年度に向けて検討をしていきたいと思ひます。第1回に引き続き、全体を通して、ほとんどの項目で実現度は80%以上でした。自由記述欄には、多くの色々なご意見をいただきました。今後も学校と保護者が学校教育目標に向かって、協力し合って子どもたちの心身ともに健やかな成長を目指していきたいと思ひます。

「教職員自己評価」については、多くの項目で実現度は80%以上でしたが、実現度が低い項目もありました。全教職員が同じ姿勢で学校教育目標の具現化に取り組んでいきたいと思ひます。

今回の学校評価の結果やいただいたご意見などについては学校運営協議会でも取り上げて話し合いました。今後も皆様のご協力をいただきながら、一人ひとりの子どもを大切にしたいと思ひます。思い、中、アンケートにご協力いただきありがとうございます。

○学校評価(子ども・保護者・教職員)の結果

実現度は「よくできている」・「だいたいできている」を合わせた数値

	質問項目	子ども実現度		保護者実現度		教職員実現度	
		R5①	R5②	R5①	R5②	R5①	R5②
学校生活	1 学校で楽しく過ごす	94%	93%	94%	97%	100%	100%
	2 進んであいさつをする	97	88	79	89	100	94
	3 色々なことにチャレンジしようとしている	90	86	83	89	94	94
（保護者の学力）	1 授業中に学習のルールを守る	92	89			100	100
	2 授業や帯時間の学習に集中して取り組む	90	78	97	84	88	85
	3 家で宿題や自主学習などに進んで取り組む	91	89	78	75	73	94
（子どもの心算）	1 誰とでも仲良くする	98	86	89	98	100	100
	2 相手の思いや考えをよく聞いて大切に	96	91	86	86	100	88
	3 相手の気持ちを考えて行動する	89	86	87	87	100	94
（保護者の学力）	1 自分の体や心を大切に	91	90	99	99	100	100
	2 生活リズムや歯磨きなど健康に気をつける	91	86	92	89	93	100
	3 進んで外遊びや運動をする	92	86	73	80	69	76
（学校の取組）	1 興味をもって学習に取り組んでいる	90	84			100	100
	2 学習中に楽しく話し合い活動を行っている	91	91			87	81
	3 課題や問題に自分から進んで取り組む	90	86			88	88
（保護者の取組）	1 子どもが学校での出来事などの話をよくする			96	81		
	2 子どもの宿題や学習ノート、学校からの便りなどを見る			92	89		
	3 本をよく読んでいる。	70	76		50		

主な成果と課題

<学校生活>

朝の登校時に挨拶をする子どもは多いです。アンケートでも進んであいさつをしていると答えた子どもたちは、90%近くいました。しかし、実現度は、前回に比べて下がっています。学校で楽しいことがあると自然と挨拶もできるようになりませんが、何か面白くなかったり、嫌なことがあったりすると、表情が曇り挨拶もできにくくなります。子どもの表情をよく見、一人ひとりと関わり、子どもの困りや悩みに寄り添っていききたいと思います。

<もっと学びたいと思える子ども>

「授業や帯時間の学習に集中して取り組んでいる」の実現度は、前回より10%以上、下がりました。詳しく見てみると、「授業中は集中して取り組んでいる」と答えた子どもは、前回とほぼ変わっていません。しかもは、「帯時間のどんなプリントを集中して取り組んでいる」と答えた子どもは、前は87%でしたが、今回は、68%と大きく実現度が下がりました。プリントの内容が、マン

ネリ化してしまっている、プリントの補充が不十分だった、など原因がいくつか挙げられます。どんなプリントの実践は、基礎基本の学力の定着には、効果を示しているのか、来年度も続けていきたいと考えています。今年度実践したことをふり振り返り、内容などを検討し、来年度に活かしていきたいと思っています。

<子どもたちを大切にできる子ども>

「誰でも仲良くする」の実現度が少し下がりました。毎月の朝会では、「人権の日」としてテーマを設けて多様性を認め合うことや心身を大切にすることなどを学んでいます。「人権の話を聞いてじっくりと考えようとしてい」と答えた子どもは91%いました。人権の日の話について、子どもたちは真剣に聞き、よく考えている姿が受け取れます。今後も様々な活動を通して、自分自身や友だちを大切にすることを育んでいきたいと思います。

<まいにち笑顔で過ごせる子ども>

前回よりも「進んで外遊びや運動をする」子どもの実現度は下がりましたが、昨年度の同じ時期と比べると、外遊びをしている子どもは増えています。今年度は、委員会の取組などで、期間を決めて、中間休みに体育館を開放する取組を行いました。普段あまり外に出で遊ばない子どもと一緒にドッチボールをしたり、フリスビーを使ったりして遊ぶ姿が見られました。進んで身体を動かし、健全な身体

<学校独自の取組(子ども)>

「学習中の話し合い活動(対話)」を楽しんで行っている」と答えた子どもは、90%以上でした。友だちと話し合って学習することを意欲的に取り組んでいます。子どもたちが、学習を楽しんで行えるように、色々な意見を聞いて学びを深められるように、今後も工夫していきたいと思っています。

<学校独自の取組(保護者)>

「本をよく読んでいる」と答えた子どもは、前回よりも増えました。貸出冊数が、昨年度よりも1000冊ほど増えています。学校の図書館をよく活用していることが伺えます。階段の掲示板に、本に関わる掲示を行ったり、委員会の子どもたちがおすめの本を紹介したりと、本に親しんでもらおうとする取組の成果もあつたと思います。また、保護者アンケートから、「身近な所に本を置いている」「図書館によく行く」など、子どもが本に興味をもつことができるような手立てをしているご家庭も増えているように感じます。読書は、学習の基礎につながっていきます。これからも、読書に親しんでほしいと思います。

費用について

○費用はかかっても良いので、体験型の学びを増やしてほしい。遠足や校外学習などは、普段行けないようなところに連れて行ってほしい。

⇒費用は、京都市である程度決まっているので自由に徴収することは難しいです。遠足や校外学習などの内容につきましては、検討していきたいと思っています。

○子どもたちのために有効に使われていくと思う。

⇒今後も、子どもたちの学習や生活のために必要なものを購入していきたいと思っています。

学校行事などについて

○運動会はリレーや応援合戦がなくて少しさみしい感じがした。

○運動会、マラソン大会の内容や運営は、子どもたち・先生方全員・保護者が安心安全の運動会種目と方法となるように考えていただきたい。無理をすることが一番危険で怪我につながるため避けて欲しい。

○小規模校ならではの他学年との行事ができ、互いに応援したり一緒に頑張ったりすることができて良かった。⇒運動会、マラソン大会についてのご意見を多くいただきました。運動会では、久しぶりに一緒に観戦したり、たてわり競技を行ったりすることができました。内容につきましては、学習の内容をもとに、保護者からのご意見も参考にして、校内でも検討をしていきたいと思っています。

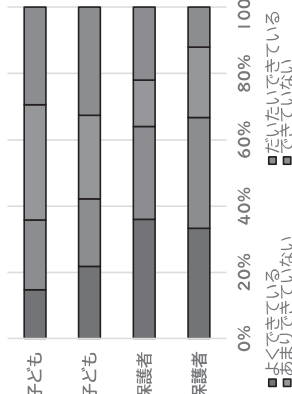
○参観授業について、情報モラルやネットモラルの親子授業をどこかの学年で行い、保護者啓蒙を兼ねると良い。参観授業の性教育もあれば良い。

⇒性教育に関しては、時期は学年によって異なりましたが、参観として一度は公開しています。来年度も、参観していただけるように計画していきたいと思っています。毎年、それぞれの学年で情報モラルなどの授業も行っています。12月の人権参観で、5年生が情報モラルについての授業を行いました。それぞれ系統立てて学習を行っていますので、ホームページ等でもその様子をお知らせできるようにしたいと思います。

学校運営協議会より

今回の学校評価アンケートの結果については、3月8日(金)の学校運営協議会にて報告させていただきました。「学習」「学校行事や教科以外の学習」「給食や体育など健康・安全」の3つのテーマについてワーキングショップをして話し合いました。皆様からは、貴重なご意見をいただきました。来年度に向けて、検討していきます。今後も、子どもたちを見守り、元町教育にお力添えをいただければ幸いです。

本をよく読んでいる



<参 考>

京都市立向島東中学校における実践事例

- 所在地 京都市伏見区向島吹田河原町138
- 生徒数 167名（令和5年5月1日現在）
- 創 設 1983年（昭和58年）向島中学校（現向島秀蓮小中学校）内に併設され開校

- 中学校ブロック
向島東中学校、向島小学校、向島藤の木小学校

※ 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」が学校訪問等により実施した第三者評価としての指導助言の内容を含め掲載。

令和5年度 京都市立向島東中学校『学校経営方針』

最高教育理念

『「愛」と「学び」と「志」をもった生徒』

◆学校教育目標

『未来の世界を、たくましく生き抜く学び手の育成』

◆目指す生徒像

「愛」 人を大切にする生徒

～人（自他ともに）を大切に思い、つながり、高めあう姿～

「学び」 学びに夢中になる生徒

～学びに没頭し、他者と協働しながら教科の魅力を楽しむ姿～

「志」 自律・自立のもと自己変革できる生徒

～目標を立て、見通しを持ち、自己調整しながら成長する姿～

◆生徒に付けたい資質・能力

「愛」 思いやり、対話力

「学び」 探究心、アセスメント力、情報リテラシー、自己（相互）調整力、倫理的思考力、表現力

「志」 自己指導能力

◆目指す学校像 『みんなの笑顔があふれる学校』

(1) すべての人の人権が守られた、安心・安全な学校

(2) 社会の規範を遵守した学校

(3) 保護者・地域と強い信頼関係で結ばれた学校

(4) 生徒が、誇りを持てる学校

◆目指す教職員像 『深い生徒理解と強い絆で結ばれた教職員』

(1) 教育に携わる者として志と責任感をもった教職員

(2) 一人ひとりの生徒の内面や背景をしっかりと理解し、「生き方に迫る指導」をする教職員

(3) 謙虚に他者の意見にも耳を傾け、自らの姿勢を厳しく見つめ直し成長する教職員

(4) 生徒にとって「社会で生きていくためのモデル」となる教職員

(5) 本校の実態をしっかりと把握し、その課題の解決に向けて、「チーム」として協働できる教職員

(6) 互いに尊重し合い、高め合い、困ったときには助け合える教職員

◆今年度の重点課題

『夢現プロジェクト』の充実・総合育成支援教育の推進・図書館教育の充実



新しい学校構想 ～ 夢現プロジェクト R5～

新学習指導要領の全面実施、GIGAスクール構想、働き方改革、Society5.0、SDGs 持続可能な成長に向けた質の高い教育の視点をもつ改革を踏まえ、これまでの教育に捉われない、大胆な発想による新しい形態の学校を構想する。また、本校における課題（特に学力面）に対して解決を目指す構想であり、個別最適化した学習の実現、独自性・汎用性のある構想、改善なく改革をすすめる。さらに、働き方改革を進める。全教職員がチームとして、仕事は楽しく、ビジョンを持って進める。

【保護者・地域】	【生徒（学び）】	【生徒（人間性）】	【教師】
・経済的格差や貧困家庭等教育環境の脆弱さ ・学区における保護者の意識の違い	・基礎学力の未定着 ・家庭学習習慣の未定着 ・学習意欲の乏しさ	・自尊感情が低い ・自主性に欠ける	・授業力 ・働き方改革の意識 ・子どもへの支援方法 ・変化への対応（自主変革含む）

京都市立向島東中学校

学校教育目標『未来の世界をたくましく生き抜く学び手の育成』

【新しい視点での学び】

- 授業づくり（「主体的・対話的で深い学び」の実現）
 - ・授業フレームの確立
- 校内授業研究体制の確立
 - ・定期的な校内研究授業…5月、8月、12月、1月実施（外部助言：深沢幹彦氏）
- 評価方法の見直し
 - ・単元（観点）テストの導入…指導と評価のスマールサイクルで、自己肯定感を高める
- テスト形式の見直し
 - ・ノート持ち込み形式のテスト…思考力・判断力・表現力を問う
- 主体的に学ぶ意欲を育む取組
 - ・HIGASHI サマースクール…学びに夢中になる特別課題授業
 - ・東タイム…毎週水曜日放課後実施。生徒の主体的な学びを支援する時間
 - ・自学自習教室…毎週水曜日放課後開放。自分の目標に向かって見通しを立て、粘り強く取り組む場所
 - ・入試対策教室…3年生2学期以降の放課後実施。学生ボランティアの活用
 - ・自学自習ノート…主体性を育む家庭学習



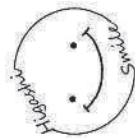
授業改革

【働き方改革】

- 超過勤務縮減に向けて
 - ・複数担任による業務軽減（学級運営業務、生徒指導等）
 - ・留守番電話時間の設定（小中共通時刻：18時30分）
- 働き方改革推進委員会（スマイル委員会）の設置（R4～）
 - ・働き方改革推進主任+公募による教職員（計5名）と管理職
 - ・年休取得率を上げる（通常授業時の年休取得 スマイルデーの提案）
 - ・“意欲のわく職場環境づくり”について企画・立案
- 学校行事、学校習慣の見直し・精選
 - ・職員朝礼の廃止 ⇒ 連絡はセンターサーバー内で共有
 - ・会議の精選、縮小（勤務時間内の会議設定）
 - ・向東祭の縮小



【教職員ポロシャツ】



【スマイル委員会ロゴマーク】



【縦割り行事へ向けた教職員スポーツ懇親会】

【学校体制】

- 担任制度の見直し
 - ・One チーム制（複数担任制+全員担任制）
複数担任制をベースに、学年教員が1つのチームとして運営する意識を高める
- 縦のつながりの構築
 - ・全校縦割活動（向東祭体育の部・音楽の部、全校道徳）
 - ・3学年を3グループの縦割りグループに分け実施。縦のつながりの中で自己有用感が高まると共に、伝統の継承を行うことで、持続可能な改革の基盤づくりとする。
- 小中連携の強化…9年間の学びを見通した授業づくりを目指す
 - ・小中合同研修、授業参観交流の実施
 - ・小6児童の行事参観



【生徒主体の学校づくり】

- 生徒会活動による学びの推進
 - ・生徒会スローガン「Learner s ～ひがのこの助走～」
- “学び”を中心に据えた生徒会スローガンのもと、各委員会が取組の企画・運営を行うことで、生徒を中心とした学校改革を目指す。



【校舎に掲げられたタペストリー】



【新入生に向けた学びの教室】
本校の授業で大切にしている「学びの作法」について、先輩から新入生にレクチャーする。（4月）



【校内授業研究研修会への参加】
校内授業研究研修会へ教職員と一緒に参加し、向島東の学びについて生徒が協議する。



【校則改定に向けた協議】
校則改定に向けて、生徒と教職員が一緒に協議し、決めていく。

1 評価のねらい

学校教育目標『未来の世界を、たくましく生き抜く学び手の育成』の実現に向けて本校では学校改革（夢現プロジェクト）を進めている。授業改革を柱として、単元テストの実施、複数担任制、全校縦割り活動など様々な活動を行っている。改革の推進に向けてそれぞれの取組に対して地域・保護者・生徒・教職員から様々な機会をとおして評価を受け、教育活動に反映し、生徒たちがなりたい自分になるために、夢の実現のためにサポートできる学校づくりを行う。

2 重点評価項目

（１）「確かな学力」の育成に向けて

学び合いの中で、自己肯定感や学びに向かう主体性を育み、本校の目指す資質・能力を育成する

（２）「豊かな心」の育成に向けて

道徳科の時間を中心にすえた「こころの教育」を充実させる

→「自ら考え、正しく判断し、愛をもった行動がとれる生徒」の育成

（３）「健やかな体」の育成に向けて

健康保持・体力向上・より良い生活習慣の確立

（４）学校独自の取組

自らの未来と次代の社会を創造する児童生徒の育成（小中一貫教育目標として）

（５）教職員の働き方改革について

教職員一人一人がいきいきとした姿で子どもと向き合い、心豊かな生活を送る時間を確保する

3 評価項目の検討方法

学校改革に着手すべく令和２年度に、学校の現状や課題について全教職員で話し合い、生徒・地域・家庭・学校・教職員等、様々なカテゴリーにおいて約２００にも及ぶ課題が浮き彫りになった。その課題から見えてくる実態と新学習指導要領で指摘されている課題を照らし合わせ、これまでの教育に捉われない大胆な発想による新しい形態の学校を目指し、現在の学校目標を設定した。その学校教育目標の達成度を検証するため、現在の評価項目を設定した。改革が軌道に乗った今、つけたい資質能力の変容もあり、今後、項目を変更することも視野に入れていく必要がある。

4 評価手法

- ・生徒、保護者、教職員へのアンケート調査（前期・後期の年２回）
- ・教職員出退勤システムの超過勤務集計結果
- ・全国学力・学習状況調査の実態調査アンケート結果
- ・学校運営協議会による学校評価を基にした検証結果

5 自己評価

(1) 「確かな学力」の育成に向けて

授業改革に向け、今年度は公開授業週間や教育視察、研究発表など、各教科で授業を公開する機会を多く設定することができた。その中で、教科会の充実と、教科の枠を超えた授業改善チームの取組により、授業力を高めることができた。また自学自習教室での大学生ボランティアによる学習支援を充実させたことにより学習習慣の改善も見られた。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

縦割りの学校行事や全校道德の取組をはじめ、すべての教育活動において生徒が主体的・対話的に関わり学び合う場面を意図的に設定してきた。また研究発表会の中で、生徒が自ら語り、自分の学校の良さを来校者に伝える機会を作った。交流の中で来校者が向島東中学校をどのように感じたかを、生徒自身が客観的に知る貴重な機会となった。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

基本的な生活習慣の確立、特に睡眠の大切さは今後も強く生徒達に発信していく必要がある。そのために健康教育部会や生活補導係などと連携し校内での取組を推進していきたい。また学校保健委員会を充実させ、保護者に対しても思春期の健康面について訴えかけることも必要である。

(4) 学校独自の取組

授業改善を軸とした学校改革を推進し、研究発表会をはじめ外部からの学校視察が多くあり、生徒も教師も日ごろの学びに向き合う姿勢を外部に発信できたことは大きな自信につながった。そのことが自らの学校を誇りに思う気持ちにつながった。これらの経験から、課題に目を背けず生涯学びに向き合い続ける姿勢を育んでいきたい。

(5) 教職員の働き方改革について

確実に超過勤務は減少しており、計画的に業務が遂行されていることは評価できる。ただ行事がある9月、10月や12月～2月の3年生の進路決定時期には超過勤務は増加する。しかしながらこのことは不可避であり、逆に必要なことであると考え。今年度、働き方改革推進委員会が機能したことで、職場の雰囲気は格段に良くなり、協力体制が構築できている。教職員1人1人のモチベーションアップと働きがい改革を今後も定着させていきたい。

6 学校関係者評価

(1) 「確かな学力」の育成に向けて

学習に前向きに取り組む姿勢が感じ取られた。主体的・対話的な学習を行う大切さも現在の学校現場では必要である。ここまで本当によく子どもたちを指導していただいていることに感謝している。ただ課題点もあると聞いているので引き続き改善をお願いしたい。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

子どもたちは地域で挨拶をしてくれている。そのような姿勢を見て、心の教育もできていると感じられる。地域でこれからもしっかりと子どもを育んでいきたい。その中で地域の良さをもっと大人が発信していければと思う。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

基本的な生活習慣、特に就寝時間については気になるところである。「質の高い睡眠」は健康維持のために必要なことである。家庭と学校で協力し、しっかりと指導してほしい。またスマホの長時間使用も気になるところではあるが、この点については大人自身が使い方を考え子どもに示すことも必要だと思う。

(4) 学校独自の取組

授業スタイルが昔と比べ、変化してきていることは画期的だと思う。子どもたちが学校に誇りを持てることは素晴らしい。今後も地域として応援していきたい。数年前と比べ学校が良くなったと地域でも感じる。行事や研究発表会、学校視察など多くの取組が生徒や教職員の自信につながっていることはとても素晴らしいと思う。

(5) 教職員の働き方改革について

教職員の超過勤務時間の実態もかなり改善されているように感じる。電話対応時刻なども、時代に合わせて変更していけばよいのではないかと思う。日々の教職員の様々な業務に感謝している。

7 ICT化の推進や働き方改革の推進、コロナ後の学校運営等、社会変容に応じた取組内容 (学校評価の実施に際して)

- ・今年度全市に導入された保護者連絡ツールにより、様々な連絡事項を周知徹底することができた。学校評価に関しても、アンケート作成・集約等を容易に行う事のできるソフトを活用し、保護者の端末での回答が可能になった。また、保護者連絡ツールに回答フォームの URL を添付することで回収率向上にもつながった。
- ・学校評価回収後の結果考察についても、データの取り扱いやすさからより深く分析することができたように感じる。

8 総括・次年度に向けた課題等

令和2年度より着手し、取り組んできた学校改革であるが、今年度一定の成果が表れたと感じている。学校教育目標である『未来の世界を、たくましく生き抜く学び手の育成』に向け、授業改革を柱とし授業力向上に向けた取組を学校体制として充実させることができた。その結果、子どもたちの授業に取り組む姿勢も変容し学びに向き合うことができている。

ただ、今後も現在の取組が有効に機能しているか、評価項目を再確認していくことも必要である。また、地域・家庭・生徒・教職員の評価結果や様々な意見を活かし、子どもたちが主語になる学校改革がさらに進むような学校体制を構築していきたい。

検証委員会の意見を踏まえた改善点

1 既に改善した点

- ・「生徒アンケートの中で、授業での達成感や満足感を問う項目、あるいは自ら学びたいと思える授業はあるかという項目において、良くない数値もある。」というご意見をいただいた。アンケートを分析する際、成果を見るために肯定的評価の数値ばかりを意識していたところがあった。本校はグループ学習による課題解決型の授業を設定し、「主体的・対話的で深い学び」の充実を目指しているが、このスタイルによる授業を苦手とする生徒も一定数いる。そうした子どもたちも含む、誰一人取り残されない授業を目指すことの重要性や具体的な「授業作り」について、研修会等で意見交換を重ね、全教職員に共有した。
- ・「テスト返却こそ、一番の授業だという視点も大事にしてもらいたい。」というご意見をいただいた。ご意見のとおり、テスト返却は単なる点数の開示ではなく、それまでの取組の振り返りや、これからの在り様を考える貴重な機会であり、生徒たちへの声掛けのあり方などの具体的な指導法について、教職員間で意見交換を行った。

2 今後改善する点

- ・「GIGA スクール構想をどう理解するか。学校という環境にデジタルという視点が入ってきた時にどういう在り方が学校にとっていいのか、議論を深めてもらいたい。」というご意見をいただいた。本校は GIGA 構想推進チーム（7名構成）を立ち上げているので、来年度は「生徒にとって有益なデジタル化とは。」ということを経験の柱にして、検討をしていくようにする。
- ・「もっと地域の力を借りられる余地があるのではないかと？」という御意見をいただいた。コロナ禍もようやく落ち着き、地域の方々とも積極的に関わられるようになってきたので、来年度からは、学校行事や総合学習も地域とのつながりを意識した内容を検討していきたい。また、これまで制限をかけていた授業や行事の参観を増やしたり、今までよりも積極的に学校の様子をホームページで紹介したりするなど、学校への関心を高めてもらう。さらに、PTA 本部役員にも「学校と保護者との連携」について考えていただき、具体的な方法について協議を重ねていきたい。

学校評価のねらい

自己評価及び外部評価の内容・方法や公表等を研究・実践し、教職員の研鑽の充実と学校の信頼の向上を目指す。

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中間評価	4	教育指導計画の作成 学校評価の実施に向けた企画		前年度評価結果を HP 再掲
	5	評価項目の検討		学校経営方針・学校評価年間計画を HP で公表
	6		学校運営協議会員の委嘱 学校現状の報告と 評価方針の説明と承認	
	7	保護者アンケート 教職員アンケート 生徒アンケート		
	8	アンケートのまとめと分析 (各種調査から生徒実態の振り返りと対策)		
	9		学校運営協議会 委員の会合 評価の講評と改善方法 の検討	
	10			HP での公表
	11			
年間評価	12			
	1	保護者アンケート 教職員アンケート 生徒アンケート		
	2	アンケートのまとめと分析 (各種調査から生徒実態の振り返りと対策)	学校運営協議会 委員の会合 評価の講評と改善方法 の検討	
	3	次年度の方針と計画		学校だより・HP での公表

向東だより

京都市立向島東中学校
令和5年11月



平素は本校教育活動にご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。
さて、先日保護者の皆様にご協力をお願いしておりました『学校評価アンケート』にご回答いただき、本当にありがとうございました。

【学習面】

令和3年度から取り組んでいる授業改革について、本校が目指す授業モデルに向けて、学校全体として意識して取り組むことができました。各教科の授業において、単元の中で、グループ学習による課題解決型の授業を適切に設定することで、「主体的・対話的で深い学び」の充実を目指してまいりました。日頃の授業の様子においても、生徒が主体的に学び合い、学びに夢中になる姿が多く見られるようになりました。これは、学校評価アンケートの、授業の満足感や達成感に関する指標において、生徒・教員の両方において70%を超える評価からもその成果が伺えます。

昨年同時期に実施させていただいたものと比較すると肯定評価が向上した項目は、

「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか。
昨年度75.4⇒今年度83.7」などでした。



【生活面】

23時以降に就寝する生徒の割合は52.7%（学年が上がるにつれて高い割合）で、そのうち24時を過ぎてから就寝する生徒が約半数である。また1日のスマホの使用時間が2時間以上と回答した生徒は76%と非常に高い割合となっています。深夜になってもSNSやゲームなどで多くの時間を費やし、不規則な生活になってしまわないように気を付けたいものです。中学時代は体の成長が著しく、健康で暮らしていくには十分な睡眠と規則正しい生活が不可欠です。早寝早起き・朝ごはんを意識しましょう。

【豊かな心の育成】

各教科や道徳、特別活動の中で生徒が主体的・対話的に関わり、学ぶ場面を設定し取組を継続することで、さまざまな人を思いやり親切にしているという生徒の認識につながったと考えています（82.9%）。また、向東祭の中での縦割り活動を通じて他学年の生徒と関わりを持ち、経験や感動を共有できたことが多面的な学びにつながり、学校を誇りに思う気持ちにつながりました（76.7%）。

生徒自身が自覚を持ち、様々な考えに触れ、経験と想像力を養い、場に応じた言動ができるように継続して指導していきたいと思います。



今回保護者の皆様より回答いただきました結果（自由記述欄に記載いただいたものを含む）に加え、生徒対象・教職員対象のアンケート結果を教職員一同で共有し、今後の取組を見直すとともに後期に向けて、よりよい教育活動の進め方を探っていきたいと考えています。

向東だより

京都市立向島東中学校
令和6年3月



平素は本校教育活動にご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。
さて、先日保護者の皆様にご協力をお願いしておりました『【後期】学校評価アンケート』にご回答いただき、本当にありがとうございました。

【学習面】

今年度は、公開授業週間や教育視察、研究発表など、授業公開する機会を多く設定することができました。その中で、教科を混ぜた授業改善チームの取組により、授業力を高めることができました。この成果により、日頃の校内の授業の様子において、協働しながら学びあい、自ら学びに向かおうとする生徒の姿が多く見られました。【授業の中で満足感や達成感が持てているか】の項目で、生徒の肯定評価78%、教職員の肯定評価74.2%の結果からもわかります。確プロの結果においても経年変化を見ると、3学年ともに上昇傾向となっています。

【授業や教科書の内容が理解できていますか】の項目での、生徒の肯定評価83.7%とも相関しています。また、【普段、家庭では自分で計画を立てて勉強していますか】の項目において、生徒の肯定評価が50.4%と初めて半数を超えました。自学自習教室での、大学生ボランティアによる学習支援を充実させたことの影響も大きいと思います。引き続き子どもたちが主体的に学習に向き合える環境を整えていきたいと思います。



【生活面】

24時以降に就寝する生徒は30.1%（前期比3ポイント増）と非常に多い現状です。学年が上がるにつれてその傾向は強く3年生では44.7%の生徒が24時以降に就寝しています。進路決定を控え、学習時間の増加も考えられますが、スマホの使用時間との因果関係も十分に考えられます。ネットの平日の使用時間が2時間以上と答えた生徒は77%を占め、健康面への影響を考え、子どもたちと話し合ったうえで使用の約束を決めていくことが大切です。



【学校独自の取り組み】

今期は研究発表会をはじめ外部からの学校視察が多くありました。生徒も教師も日ごろの学びに向き合う姿勢を外部に発信できたことは大きな自信につながったと思います。そのことは【向島東中学校を誇りに思いますか】の項目での生徒肯定評価82.1%（前期比5.4ポイント増）から見ても明らかです。また授業改革を軸とした学校改革も【授業では課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができますか】の項目での肯定評価78.1%（同11.5ポイント増）の結果から生徒たちの前向きな姿勢が読み取れます。最後に本校学校教育目標『未来の世界を、たくましく生き抜く学び手の育成』の指標の一つとして考えられる【中学生になってから、難しい事でも失敗を恐れずに挑戦していきたいですか】の項目での肯定評価が76.5%（同5.1ポイント増）でした。現在の取り組みが一步步前進していることを実感すると同時に、さらに生徒たちの意欲が向上していくことを望みます。



今回保護者の皆様より回答いただきました結果（自由記述欄に記載いただいたものを含む）に加え、生徒対象・教職員対象のアンケート結果を教職員一同で共有し、今後の取組を見直すとともに後期に向けて、よりよい教育活動の進め方を探っていきたいと考えています。

